
君の世界に

D-6

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の世界に

【Nコード】

N3367T

【作者名】

D - 6

【あらすじ】

大学生の冬樹と正体不明のソーが始める物語

イントロ

大学からアパートまでの道のりは自転車で15分程度の軽いものだ。今日は夕方まで講義があったため、もう日は落ちかかって建物の影が大きく伸びている。

自転車をこぎながら冬樹はどうしようもない無気力感に浸っていた。彼の毎日の生活が、この大学からの帰り道のように単調だからということもある。

人通りのある道から、走ることに使うぐらいの川沿いの道へ出た。自動車が通ることができないようになっていて道なのでたいしてきれいでもなく、彼の走る左側には車道が2メートルほどの坂の上であり、右側は川になっていて、道との間には背の高い雑草が茂っている。

彼がふと前のほうを向くと20メートルほど向こうの雑草が妙な動きを見せているのに気が付き、同時にそこから人の声が聞こえるのがわかった。

彼はその何を言っているのかよくわからない若い女性の声に少し恐怖を感じたが、気にせず走り去ることをすぐに決めた。そしてその揺れ動く雑草のそばまで来たとき、彼が横目にそちらのほうをのぞくと、喋る薄緑色の布の塊がうごめいていた。

不思議なものを見てしまったと彼が思ったとき、自転車の後方に大きな揺れと衝撃を感じ、同時に自分が後ろから人に抱きつかれるのを感じた。その腕は薄緑色の服を着ており、彼はすぐに先ほどの緑の人だとわかった。

「ええ？」

しかし彼には何がどうなっているのかわからないのと同時に、自転車の二人乗りをしたことがないためバランスが取れないのを理由にその自転車をとめた。

そして体を後ろにひねり荷台の上に無理やり乗ってきたであろう人

物の方を向いた。そこで何かしら今まで感じたことのない、しかしとてもしつくりと来るような衝撃的な感覚を彼は感じた。

「え？なんですか？」

後ろに座り、つかまっている冬樹と同年代の彼女はいたって落ち着いていた表情で冬樹の方を見ていた。彼女が来ている服はやわらかいブランケットのような生地でできたワンピースのパーカーであった。

「いけ、風のようにブルズアイ！」

唐突にそう大きな声で言われたので冬樹は困惑し、言葉をなくしたが、ここでじっと見つめあっているのもなんだかおかしい気がして、よろよろと自転車を走らせ始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3367t/>

君の世界に

2011年10月5日18時19分発行